

転勤族は大変だ！ 新潟から一変，東京暮らしを満喫している主任者



この人：(独)国立病院機構東京医療センター 近藤 浩氏

この人，こんな所

インタビュー担当：放射線安全取扱部会広報委員会
小野孝二（東京医療保健大学）

全国の(独)国立病院機構は6ブロック、143施設を有する巨大な組織です。国立病院機構の本部は、東京都目黒区東が丘に位置しています。本部と同じ敷地内に存在する東京医療センターは国立病院機構においても歴史ある病院と伺っております。実は、私の所属する東京医療保健大学も同じ敷地内に位置しており、今回は、お隣さんである東京医療センターで放射線取扱主任者としてご活躍の近藤浩先生に登場いただきました。

小野：はじめに、東京医療センターの歴史と病院の概要について紹介をしてください。

近藤：東京医療センターの歴史は、1884（明治16）年に設立された海軍軍医学校第二付属病院に始まります。1945年には、海軍の解体により厚生省（当時）へ移管し、国立東京第二病院となりました。中高年層の方には、旧称“国立東京第二病院”の方が思い当たるかもしれません。その後、1998年に国立病院東京医療センターへ改称となり、2001年には厚生労働省の所管、2004年に独立行政法人化され国立病院機構東京医療センターに改称されて今日に至っております（写真1）。現在、東京医療センターが属する関東甲信越ブロックには、1都9県、



写真1 東京医療センター

33か所の病院があります。病院の概要は、診療科は25科で構成され、救命救急センター、臨床研究として感覚器センターを併せ持ちます。病床数は780床、外来数は1日当たり約1,500名です。2012年4月より、国の“地域癌診療連携拠点病院”に認定されております。

小野：病院周辺は環境のよい所ですね。

近藤：はい。私も病院の周辺環境をととても気に入っております。立地的には、若者の街、渋谷から電車で6分程度、1964年の東京オリンピック会場であった駒沢オリンピック公園が目の前に位置しております。スポーツを好み、四季の移ろいを感じながらゆったり散歩を楽しむためのスペースはとても心地よいです。また、元海軍病院という諸事情もあり、路地に入ると閑静な高級住宅地が広がっております。

小野：核医学センターに所属されているという

主任者 コーナー

ことですが、日々の職務について教えてください。

近藤：私が携わる核医学センターは、SPECT 2台、PET/CT 1台を有します。スタッフ構成は、放射線科医 1名、診療放射線技師 3名、看護師 1名、受付事務 1名です。PETは、2009年9月に導入され4年3か月が経過しました。サイクロトロンは有しておらず、デリバリーによる ^{18}F -FDG（フルオロデオキシグルコース）検査を行っています。検査件数は、2013年1～12月で約1,600件でした。検査内訳は、疾患別に悪性リンパ腫 26%、肺癌 18%、頭頸部癌 13%、大腸癌 8%の順でした。他施設からの本院へのPET検査の依頼はPET検査全体の約15～20%です。

小野：PET診療に携わる上で苦慮、注意していることを教えてください。

近藤：はい。患者に検査内容や注意事項について事前に十分な説明を行い同意をいただくことです。PETの利点は、患者にとって苦痛がほとんどないことです。しかし、初めて検査を受ける場合には、どのような検査なのか、分からないことによる不安があります。当院では、予約後から検査前までに、約15分の検査説明を必ず実施しております。2回目以降に受ける方も同様です。確実に説明したことを、ワークシートと電子カルテに記録・保存しております。事前説明には3つの手順があります。第1に、ワークシートを用いて、検査を受けられる身体状態かの確認や検査結果に影響を与える因子がないかをよく観察します。具体的には、糖尿病の有無、下剤や整腸剤の服用、肉体的労働の有無やスポーツ習慣、介助の要否、妊娠の可能性などです。糖尿病のある方は、PET画像に影響を与える血糖コントロール剤の投与・飲用前に検査できるように予約時間を朝一番の8時30分に変更し、体重やBMIが高い方は、 ^{18}F の入荷

直後の放射エネルギーが多い予約時間に変更します。第2に、検査内容や注意事項の説明と同意です。検査の5時間前から絶食する必要があります。アメやガムなどの菓子類も禁止です。ただし、水と白湯は自由です。70～80歳の高齢者も多いですから、単なるお願いでなく理由を明確に説明することがポイントです。検査内容は、パンフレットを使って ^{18}F -FDG薬剤のこと、PET画像の特徴、CT画像の必要性を説明します。また、 ^{18}F -FDGを投与後、撮影開始まで60～90分待機すること、撮影時間が30分、更に撮影終了後に放射能減衰するまで30分待機すること、全ての所要時間は2時間半～3時間になることを説明します。

第3に、検査前日に最終確認を行うことです。電話で直接検査を受けることでの最終確認をした上で、 ^{18}F -FDG薬剤の発注を行います。同時に、予約時間の厳守や5時間前の食事制限を再度伝えていきます。 ^{18}F -FDGは、高価な薬剤であると同時に半減期109分と極めて短寿命であるので、キャンセルはもちろん遅刻も避けなければなりません。なかにはすっかり忘れての方もいらっしゃいますから重要です。

小野：放射線取扱主任者としての業務について教えてください。

近藤：当院では、医療機器の増設に伴い医療法を含めた放射線業務従事者が300名を超えました。個人被ばく線量計の管理だけでも膨大な量です。放射線取扱主任者は3名が選ばれています。放射線治療部門は、密封小線源の法令規制が厳しくなっているため医師、技師の2名体制を敷いています。核医学部門は、私が担当しています。

業務は、月ごとの被ばく線量管理、教育訓練、自主点検、漏洩線量測定、放射線障害予防規程の改正、安全管理委員会の開催などです。また、PET校正用線源の管理や作業環境測定



写真2 核医学スタッフ

法に則った空気中 RI 濃度測定も実務と管理を兼ねて行っています。

小野：国立病院は全国規模ということで、転勤は避けて通れない諸事情があると察します。近藤さんも転勤の経験があると伺っておりますが、苦労話など聞かせてください。

近藤：苦労話というと大げさですが、思い出はありますね。私は、出身地である新潟県内の国立病院に採用され、30歳代半ばまでの12年間は平穩に過ごしておりました。仮に転勤になっても、当時は県内での異動で、家族の生活環境はさほど大きくは変わらないと思っていました。ですから、マイホームの情報を入手していたことを思い出します。そんなある日、師走12月初旬のことです。突然1月1日付、東京都にある病院への転勤内示を受けました。1月人事もまれなのですが、新潟県から東京都という遠方への異動ということで、私は驚きを隠せませんでした。内示を受ける間、しばらく呆然としていたことを今でも鮮明に覚えております。当時の上司も、私に何と声を掛けてよいか分からない表情でした。私は正に“ドン底の気分”で、穏やかな日々の暮らしは、どれほど私にとって幸せなことであったのかと帰宅途中に

つくづく感じました。ところが、不思議なもので、帰宅すると4人の子供たちは、家中を無邪気に駆けずり回っていたり、抱っこをしてくれとせがみます。4人まとめて風呂に入れるのが私の毎日の役割でして、そのような時間を過ごすうちに、いつの間にか心を塞いでいることがバカらしくなり、すっかり私の心は無邪気な子供たちのおかげで元気を取り戻すことができました。私は、東京への異動を冷静に受け止めることができたことは、家族のおかげであったなと今振り返っても、感謝の念で一杯になります。妻はやむを得ず仕事を辞職し、子供たちは幼稚園を中途卒園と大家族の引っ越しは大変でした。また、近所に住んでいた祖父、祖母の子育て援助を得られなくなったことはとても痛手でした。大晦日に、不安を胸に抱きながら関越高速自動道を一路東京へ向けて車を走らせたことは、今ではよい思い出となっておりますし、2001年1月1日は、21世紀スタートのメモリアルでした。またいつの日か、転勤の辞令を受けることもあると思いますが、単身赴任も覚悟しております。子供の養育や教育、高齢化による父母の介護など、家庭事情がある方にとっては転勤制度の弊害は決して少なくないのは事実です。

小野：転勤というのは、サラリーマンの宿命ではありますが、その時にどう前向きに捉えることができるかは大事ですね。家族に感謝ですね。最後に趣味について教えてください。

近藤：趣味というか習慣になっていることは、自転車散策、屋内プールでの水中ウォーキング、あとはサウナです。ゆるい感じが私流です(笑)。気分転換ができて、あわよくば体重、中性脂肪、コレステロール値が標準に戻ればと思っています。自転車は、スピード感覚や運動負荷がちょうど私自身に合っています。通勤の足にも使います。きっかけは、ある時地図を見た

主任者 コーナー



写真3 紅葉の散策

ら自宅周辺に公園，神社，寺や文化施設が多いことに気付き，実際に出掛けたら安近短で気分がリフレッシュできたことでした。行動半径は10 km 以内の半日コースです。歩くよりも風を肌で感じたり，自動車より街並みをじっくり眺められたり，すれ違う人の会話や生活の営みを感じたり，が楽しいです。今の季節（取材は11月末）ですと，公園並木の黄金色のイチョウ葉をサクサクと踏みしめる音やにおいて気分が癒されますね（写真3）。桜，新緑，紅葉，冬の楓など，その季節に綺麗なものを見るのは，感受性を豊かにしてくれます。目標は，自動車の荷室に積んで山や海へ行脚することです。

主任者コーナーの編集は，放射線安全取扱部会広報専門委員会が担当しています。

【広報専門委員】

上養義朋（委員長），池本祐志，小野孝二，川辺 睦，鈴木朗史，桧垣正吾，宮本昌明，吉田浩子